

アジア諸国との関係

《東南アジア》¹朱印船 貿易…²朱印状(幕府の渡航許可証)の発行

豪商 京：³角倉了以 ・⁴茶屋四郎次郎 堺：⁵納屋助左衛門
 長崎：⁶末次平蔵・荒木宗太郎 撰津平野：⁷末吉孫左衛門
 西国大名 島津家久・松浦鎮信・有馬氏・加藤氏

輸入 ⁸生糸・絹織物(中国産)、皮革・香料・薬種(南洋産)、ラシヤ(欧州産)

輸出 ⁹銀(世界の産出量の約3分の1)、銅、鉄、硫黄、漆器

日本人の海外移住 ←日本社会の固定化・牢人の増加

→東南アジア各地に¹⁰日本(人)町の形成…自治や治外法権を認められた町もある

〈例〉¹¹シヤム(タイ)の¹²アユタヤ(¹³山田長政…リゴール大守→暗殺)

¹⁴ルソン(フィリピン)のディラオ・サンミゲル、¹⁵カンボジアのプロンペン・ピニャルー、

¹⁶コーチ(ベトナム南部)の ツーラン・フェフォなど →18世紀にはほぼ消滅

《中国(明)》海禁(鎖国)政策→¹⁷出会貿易(両国の船が台湾などで貿易)の形式で交易

《朝鮮》国交の回復(1607)→¹⁸朝鮮通信使 の来日が慣例化…¹⁹将軍の代替り毎に 12回

☆²⁰対馬 の宗氏 は(鎖国後も)朝鮮との貿易が認められる 400人以上

²¹己酉約条 (1609：²²慶長条約)… 毎年20隻 釜山での開市

《琉球》²³島津家久(薩摩)の琉球征服(1609)→²⁴尚寧王は一時江戸へ連行される

以後、将軍の代替り毎に²⁵慶賀使 を幕府へ、琉球王の代替り毎に²⁶謝恩使 を幕府へ

一方で²⁷中国(明・清)への朝貢も継続…²⁸両属関係 砂糖などを薩摩へ上納

《蝦夷地》^{かきざき}蠣崎氏、秀吉に蝦夷島主と認められる(1590)→徳川に服属(1599)、²⁹松前 氏と改める

松前藩 最北の藩 石高なし(待遇は1万石) ³⁰アイヌとの独占交易権を持つ 〈例〉蝦夷錦

☆家臣に商場(アイヌとの交易場)を与える…³¹商場知行制

1669. ³²シヤクシャインの戦い…アイヌが蜂起 原因は日本商人と松前藩による不正な搾取

→武力差により鎮圧

☆以後は商人が交易を請け負う³³場所請負制 へ

ヨーロッパ諸国との関係

- A. ³⁴紅毛人の来航…³⁵イギリス・³⁶オランダ (布教よりも)³⁷貿易重視
³⁸新教(プロテスタント)国の台頭 ↔³⁹旧教(カトリック)国 <例>イスパニア・ポルトガル
 <例>イスパニア無敵艦隊、イギリス軍に敗北(1588)
⁴⁰東インド会社設立…イギリスはインド(1600)、オランダはバタビア(インドネシア)中心(1602)
⁴¹1600. ⁴²オランダ船⁴³リーフデフ号の豊後漂着 ……現ジャカルタ
⁴⁴ウィリアム=アダムズ(英: 日本名⁴⁵三浦按針) ……
⁴⁶ヤン=ヨーステン(蘭: 日本名⁴⁷耶揚子) …… 船員→家康の外交顧問に
⁴⁸平戸で貿易開始…蘭(1609～)、英(1613～)

B. ポルトガルとの生糸貿易

1604. ⁴⁹糸割符制度…特定の商人に⁵⁰輸入生糸を一括購入させる
 ……⁵¹糸割符仲間…⁵²五カ所商人(京・長崎・堺・大坂・江戸)

目的 ポルトガル人の暴利を抑制・貿易の統制・幕府の利益

→のち、中国(清)・オランダにも適用 1655中断、1684. 復活

C. イスパニアとの関係 ※⁵³サン=フェリペ号事件(1596)→国交断絶

1610. 漂着した前ルソン総督⁵⁴ドン=ロドリゴを送還 →国交回復
⁵⁵ノビスパン(メキシコ)との通商交渉 同行
⁵⁶徳川家康…⁵⁷田中勝介派遣(1610 日本人初の太平洋横断)
⁵⁸伊達政宗…⁵⁹支倉常長派遣(1613 ⁶⁰慶長遣欧使節) } →いずれも失敗
 宣教師レイス=ソテロに同行 ローマ教皇パウロ 5世にも謁見

オランダ東インド会社のマーク「VOC」
 (Vereenigde Oostindische Compagnie)
 at. ハウステンボス



【正誤問題に挑戦】<センター1991本試験、1990追試験より>

- (1) 幕府は、17世紀初めに、ポルトガル商人に対抗するため、長崎などの商人に仲間を結成させ、輸入生糸を一括購入・販売する制度を採用した。○
- (2) 琉球を征服した島津氏は、明(のちに清)への朝貢をつづけさせ、琉球での貿易から利益を得ていた。○